

工場概要



MIYAMATSU
JYOUNAN

宮松城南 株式会社

本社工場

東京都大田区城南島1丁目1番3号

TEL 03-3790-2016

FAX 03-3790-5745

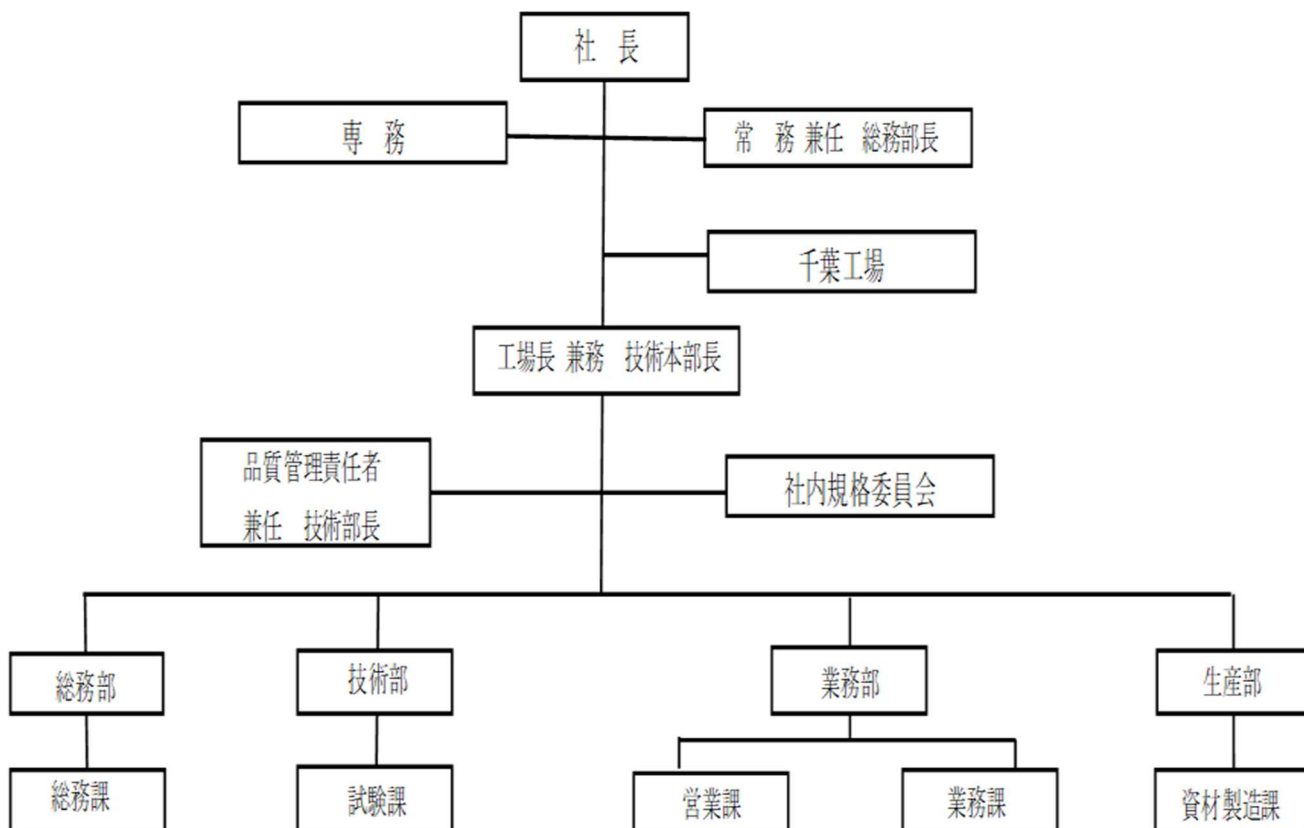
1. 工場概要
2. 組織図
3. 有資格者名簿（技術関係）
4. 連絡先
5. 主要原材料の銘柄 ・ 種類 ・ 産地
6. 主要原材料貯蔵設備 ・ 練り混ぜ設備 ・ 試験及び検査設備
7. 製造工程の品質管理概要
8. レディーミクストコンクリートの品質規格概要
9. 再生骨材コンクリートLの品質規格概要
10. 配合設計の概要（ JIS A 5308 ・ JIS A 5023 ）
11. 製造工程図（フロー図）
12. 工場配置図
13. 高強度コンクリート概要（単独大臣認定）
14. ○適マーク取得に関する件
15. 有資格者（証明書）
16. 工場案内図

1. 工場概要

会社名	宮松城南 株式会社	
本社所在地	東京都大田区城南島1丁目1番3号	
代表者氏名	代表取締役	村松直人
工場名	本社工場 代表 TEL 03-3790-2016 FAX 03-3790-5745 技術部 TEL 03-3790-2248 ホームページ http://www.miyamatsu-soc.co.jp メールアドレス(代表) info@miyamatsu-j.jp メールアドレス(技術部) gijyutsu@miyamatsu-j.jp	
工場所在地	〒143-0002 東京都大田区城南島1丁目1番3号	
工場敷地面積	736.55 m ²	
工場長氏名	工場長	佐藤宏行 メールアドレス: hiros-s@miyamatsu-j.jp
JIS取得年月日	認証番号	種 別
平成19年1月12日	TC 03 06 070	JIS A 5308 普通コンクリート・舗装コンクリート
令和3年2月8日	TC 03 20 008	JIS A 5023 再生骨材コンクリート L N・BB・H
単独大臣認定	認定番号	種 別
平成29年7月10日	MCON - 3790	高強度コンクリート N・M (FC39 ~ 60)
平成25年7月19日	MCON - 2975	再生粗骨材コンクリート N・BB (FC18 ~ 36)
他取扱商品	1DAYPAVE、セメントミルク、高流動コンクリート、半砂利コン	

2. 組織図

宮松城南 株式会社 本社工場及び千葉工場の組織は下表の通りとする。



3. 有資格者名簿

氏名	部署	コンクリート 技士：○ 主任：◎	品質管 理責任 者	廃棄物 処理施 設技術 管理者	廃棄物処理 業の処分・ 収集・運搬 課程修了者	公害防止 管理者		東京都公害 防止管理者		特定化 学物質等 作業 主任者	土木施 工管理技 士	建築施 工管理技 士	プレスト レストコ ンクリー ト技士
						粉 塵	水 質	1 種	2 種				
佐藤宏行	技術部	◎	○	—	—	—	—	—	—	—	1級	2級	◎
村松恵二	総務部	◎	○	—	○	◎	—	◎	—	—	—	—	—
村松直也	生産部	—	—	○	—	◎	—	—	—	◎	—	—	—
小林英吾	生産部	—	—	—	—	◎	—	◎	—	◎	—	—	—
青野駿也	業務部	○	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—
村松恵人	技術部	○	◎	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—
池田 寛	技術部	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小林英克	技術部	○	○	—	—	◎	—	◎	—	◎	—	—	—
青野駿也	業務部	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—
香取知明	技術部	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—
根津悠華	技術部	○	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—
篠崎聡美	技術部	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩元祐太	技術部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
太田正之	技術部	○	○	—	—	◎	—	◎	—	—	—	—	—

4. 連絡先

担 当	氏 名	電話及び FAX 番号	E-mail アドレス
営業部 業務課 予 定	片山 友明	TEL 03-5492-8028 FAX 03-5492-8032	yotei@miyamatsu-soc.co.jp
営業部 業務課 出荷係	青野 駿也	TEL 03-3790-2016 FAX 03-3790-5745	s-aono@miyamatsu-soc.co.jp 業務部 gyoumu@miyamatsu-j.jp
技 術 部 試 験 課	村松 恵人 小林 英克 香取 知明 篠崎 聡美 根津 悠華 池田 寛 岩元 裕太 太田 正之	TEL 03-3790-2248 FAX 03-3790-5745	技術部 gijyutsu@miyamatsu-j.jp keito_ma@miyamatsu-j.jp h_kobayashi@miyamatsu-j.jp t_katori@miyamatsu-j.jp shinozaki@miyamatsu-j.jp yuka_nedu@miyamatsu-j.jp ota_m@miyamatsu-j.jp
生産部 資材製造課	村松 直也 小林 英吾 武入 秀樹 後藤 浩一		生産部 shizai@miyamatsu-j.jp muramatsu.n@miyamatsu-j.jp eigo@miyamatsu-j.jp
総 務 部 (実績・経理)	村松 恵二 落合 伸行 倉金 瑠利	TEL 03-3790-2243 FAX 03-3790-5745	総務部 soumu@miyamatsu-j.jp muramatsu.k@miyamatsu-j.jp otiai@miyamatsu-j.jp kurakane@miyamatsu-j.jp

5. 主要原材料の銘柄

種 類		銘柄・出荷基地			荷 姿
セ メ ン ト	普通	住友大阪セメント 株式会社	横浜 SS・鶴見 SS・芝浦・千葉 SS・習志野 SS・栃木 SS		バラ セメント
	早強		習志野 SS・鶴見 SS		
	中庸熱		鶴見 SS・千葉 SS		
	高炉 B 種		横浜 SS・習志野 SS・栃木 SS		
細骨材	砂 (山砂)	千葉県君津市法木	質量比 60%	混合 砂	トラック
	砕砂 (石灰石)	大分県津久見市	質量比 20%		
	砕砂 (砂岩)	三重県度会郡南伊勢町	質量比 20%		
粗骨材	石灰石 (2005)	山口県美祢市秋芳町			
	再生粗骨材 (RLG2005)	株式会社 豊田商店 (城南島事業所)			
混 和 剤	AE 減水剤 標準形 I 種	ヤマソー02NL	山宗化学株式会社		タンク ローリー
		シーカメント J	日本シーカ株式会社		
	AE 減水剤 遅延形 I 種	ヤマソー02NLR	山宗化学株式会社		
		シーカメント JR	日本シーカ株式会社		
	高性能 AE 減水剤 標準形 I 種	チューポール HP-11	竹本油脂株式会社		
		シーカメント 1100NT	日本シーカ株式会社		
	高性能 AE 減水剤 遅延形 I 種	チューポール HP-11R	竹本油脂株式会社		
シーカメント 1100NTR		日本シーカ株式会社			
空気量調整剤	AE-300	竹本油脂株式会社		一斗缶	
練り混ぜ用水	上水道水	東京都水道局		-	
	上澄水	-			

6. 主要原材料貯蔵設備及び検査設備

6-1 原材料貯蔵設備

原材料名	貯蔵設備		品 種 銘 柄	貯蔵量 (t)	
	仕 様	No.		最大値	最小値
セメント	鉄板製サイロ×5 基	1	普通ポルトランドセメント	110	30
		2	高炉セメント B 種	60	30
		3	中庸熱ポルトランドセメント	60	30
		4	普通ポルトランドセメント	160	30
		5	早強ポルトランドセメント	30	10
骨材	ストックヤード(屋根付き) 900t×2 基	1	砂 (混合砂)	900	100
		1	砕石 (石灰石 2005)	900	100
	ストックヤード		再生粗骨材 (RLG 2005)	100	10
練り混ぜ用水	コンクリート製地下タンク×2		上水道水	200	-
			上澄水	50	-
混和剤	ポリタンク×5 基	1	ヤマソー02NL	6000L	1000L
		2	シーカメント J	6000L	1000L
		3	チューポール HP-11	6000L	1000L
		4	シーカメント 1100NT	6000L	1000L
		5	空気量調整剤	2000L	500L

6-2 バッチャプラント

製造メーカー	光洋機械産業株式会社	ミキサ	2軸強制式(MBU-2800) 2800L		
製造能力	180 m ³ /H	積込装置	ホッパー容量 6 m ³ ・ラバーシール付き		
貯蔵ビン	セメント	16 m ³ ×1・12.5 m ³ ×1・11.6 m ³ ×2・5.3 m ³ ×1			
	骨材	50 t×3(細骨材)・50×3(粗骨材)			
	練り混ぜ用水	上水道水 1.0 t×1			
計量装置	操作盤	カラーディスプレイ式・デジタル表示・遠隔操作式			
	制御方式	メモリー制御方式による 容積変換装置・容積増装置・表面水補正装置・粒度補正装置 回収水補正装置・微計量補正装置・自動落差補正装置等その他			
	配合選択	操作盤のテンキーによる入力・読み取り方式			
	計量装置	ロードセル方式			
材 料 名	最大秤量 (kg)	最小秤量 (kg)	基 数	計量方式	
セメント	1800	1	2	個別及び累加	
細骨材	3600	5	1	個別及び累加	
粗骨材	3600	5	1	個別及び累加	
練り混ぜ用水	1000	1	1	個別及び累加	
混 和 剤	40	0.05	1	各二種個別及び累加	
	30	0.05	1		
	20	0.02	1		

6-3 出荷及び輸送設備

- ・伝票発行：パーソナルコンピューターによる発行
- ・運搬車：アジテータートラック・無線機装備
10t車 30台 8t車 7台
4t車 2台 3t車 10台

※ トラックアジテータ標準寸法

車種	長さ (L)	幅 (W)	高さ (H)
大型 (10t車)	7.98m	2.49m	3.70m
大型 (低床車)	7.76m	2.49m	3.67m
中型 (8t車)	6.34m	2.30m	3.32m
小型 (3t車)	5.30m	1.88m	2.90m

出荷量に応じて車輛台数が変更されます。
・ショベルローダ：2.5 m³ 1台

6-4 試験設備

- 試験室 作業床面積：60m²養生水槽：5 m³
品質管理コンピューター：住友セメントシステム開発（株）製 Super XL-Q
- 試験器具
骨材試験関係―― 密度・吸水率・単位容積質量・ふるい分け・表面水率
有機不純物・粘土塊量・微粒分量・塩分含有量・その他器具一式
コンクリート―― 試験練り用2軸強制式コンクリート 60 ミキサ×1
試験関係 圧縮試験機前川試験機MS堅型式 2000KN・台秤（60 kg）・電子秤（6 kg）
スランプ試験器具×3組・ワシントン型エアームーター×3組
ワシントン型エアームーター（単位水量試験用）×1組
圧縮試験用型枠 10φ×20×120・その他秤量等一式
データロガー（静弾性係数他測定装置）

7・製造工程中の品質管理概要

7-1 原材料の受け入れ管理

セメント	品種・数量	入荷の都度
	品質及び物理試験（試験成績表チェック）	1回/月
骨 材	目視検査	入荷の都度
	骨材の微粒分量試験（細骨材） 骨材の微粒分量試験（粗骨材）	1回以上/月
	密度・吸水率・単位容積質量・実積率（粗骨材） 粘土塊量（細骨材）・粒形判定実積率（粗骨材）	1回以上/月 産地変更都度
	有機不純物（細骨材）・安定性・すりへり減量（粗骨材） 塩化物イオン量（NaCl）（細骨材）	1回以上/年 産地変更都度
	アルカリシリカ反応性試験（再生粗骨材）試験成績表のチェック アルカリシリカ反応性試験（細骨材・粗骨材）試験成績表のチェック	1回以上/3ヶ月 1回以上/6ヶ月
混和剤	目視検査・量目	入荷の都度
	品質及び物理試験（試験成績表のチェック）	1回/6ヶ月

7-2 配合管理

骨 材	細骨材の表面水率試験	午前 1 回以上
		午後 1 回以上
	粗骨材の表面水率試験・粒度及び実積率 再生粗骨材の吸水率	1 回以上/週
		細骨材の粒度

7-2 配合管理

アジテータ トラック	運搬時間（練混ぜを開始してから運搬車が荷卸し地点に到着するまでの時間とし、その時間は1.5時間以内とする）但し、購入者と協議のうえ運搬時間の限度を変更することができる	者	全 車
---------------	---	---	-----

7-3 設備検査

計量装置	静荷重検査・容量変換・表面水補正・粒度補正・容積割増	1回以上/6ヶ月
	動荷重検査	1回以上/月
プラントミキサ	練り混ぜ性能検査	1回以上/12ヶ月
運 搬 車	トラックアジテータドラムの性能検査	1回以上/3年
試験器具	圧縮試験器の精密検査・秤の精密検査・型枠の精度検査（平面度） スランブコーン	1 以上回/年
検査用設備	エアメーターのキャリブレーション	1回以上/6ヶ月

8. JIS A 5308 レディ-ミクストコンクリートの品質規格概要

8-1 規格品

当工場の製品の種類は、スランブ及び呼び強度を組み合わせた表 8-1 に示す○印のものの中から注文の際に選択して戴きます。

尚、次の事項は、購入者と協議のうえ指定を受けられます。

表 8-1 レディ-ミクストコンクリートの種類（普通コンクリート・舗装コンクリート：粗骨材の最大寸法 20 mm）

スランブ cm	呼び強度										曲げ	
	18	21	24	27	30	33	36	40	42	45		
2.5・6.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
8～18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
21	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

表 8-2 協議事項

記号	協議事項	当工場対応可能範囲
a)	セメントの種類	普通ポルトランドセメント
		早強ポルトランドセメント
		高炉セメントB種
		中庸熱ポルトランドセメント
b)	骨材の種類	山砂：混合砂（プレミックス）
	細骨材	砕石（2005）20 mm
c)	粗骨材の最大寸法	砕石 20 mm
d)	アルカリシリカ反応性抑制対策の方法	ASR試験の結果により、区分A及び区分Bとする。 但し、区分Bを用いる場合はJISA5308 附属書Bに規定する、アルカリシリカ反応性抑制対策でアルカリ総量規制の方法又は、混合セメントの使用法
e)	アルカリシリカ反応性による区分	無害は区分A、無害でないは区分B化学法又はモルタルバー法
f)	水の区分呼び強度 36 を超える場合は、水の区分	上水道水・上澄水
g)	混和材料の種類及び使用量	AE減水剤標準形I種 ヤマソー02NL・シーカメントJ セメント量の0.7%～1.5%
		AE減水剤遅延形I種 ヤマソー02NLR・シーカメントJR
		高性能AE減水剤標準形I種 チューポールHP-11・シーカメント1100NT セメント量の0.5%～1.3%
		高性能AE減水剤遅延形I種 チューポールHP-11R・シーカメント1100NTR
h)	JIS A 5308 の 5.6 に定める塩化物含有量の上限値と異なる場合は、その上限値	塩化物イオン量(cℓ)0.30 kg/m ³ 以下 ただし、購入者の承認を受けた場合には0.60 kg/m ³ 以下
i)	呼び強度を保証する材齢	普通ポルトランドセメント 28日
		早強ポルトランドセメント 7日
		中庸熱ポルトランドセメント 28日及び56日
		高炉セメントB種 28日及び56日
j)	表 8-3 に定める空気量と異なる場合は、その値	普通コンクリート 4.5%
		舗装コンクリート 4.5%
k)	コンクリートの最高温度又は、最低温度	荷卸し地点で、5℃～38℃の範囲とする。 この範囲外になる恐れのある場合は、購入者と協議のうえ、定める。
l)	水セメント比の目標値の上限	水セメント比・単位セメント量及び単位水量の限度を指定された場合は、購入者と協議の上、これを満足する呼び強度を選択して指定を受けるようにする指定外の場合は試験練りで定める
m)	単位水量の目標値の上限	
n)	単位セメント量の目標値の下限又は上限(※1)	
o)	流動化コンクリート (※2)	
p)	その他、必要事項	土木仕方書、JASS5 など各仕様書に規定されている事項で、主として使用材料の品質、配合などの事項の内、明確にしておきたい事項を指定する場合、購入者と協議の上定める

(※1) 単位水量の上限値(例えば、185 kg/m³)を超える場合は、試し練りにより g) の高性能 AE 減水剤を適用し対処する。

(※2) 購入者が d) でアルカリ総量による方法を指定される場合は、流動化剤によって混入されるアルカリ量(kg/m³)の通知を受けるものとする。

8-2 規格外品

当工場の規格外品は、下記の通りで JIS マークが抹消されます。

- ① 規格外品、表 8-1 以外のもの及び等級又は種類が JIS A 5308 に該当しないもの
- ② 品質又は性能が JIS A 5308 に該当しないもの
- ③ 製造方法が JIS A 5308 I 該当しないもの
- ④ 原材料が JIS A 5308 及び原材料品質規格に該当しないもの
- ⑤ その他の理由によって当社内規格に定められた 原材料・製造・運搬等を満足しないもの及び JIS A 5308 に該当しないもの
- ⑥ 軽量コンクリート・モルタル・半砂利・容積配合のみ・工場渡し・配合計画書が不要なもの
- ⑦ 社内規格の配合設計標準と異なる方法で求めた配合のもの
- ⑧ 練り混ぜ量が 1.0m³ 未満のもの
- ⑨ 単位セメント量又は水セメント比の限度が指定されていても呼び強度の指定のないもの
- ⑩ 練り混ぜを開始してから 1.5 時間をこえたもの(購入者と協議の上、運搬時間の限度を変更する事が出来ない場合とする。)尚、これらの規格外品は、購入者と協議の上、当社内規格及び JIS A 5308 に替わる基準を定める。
但し、当社内規格に定めた規格及び JIS A 5308 を準用できる場合はその規格による。
- ⑪ 再生粗骨材コンクリート
- ⑫ 高性能 AE 減水剤で呼び強度 24 未満のもの。

8-3 品質 強度、スランプ及び空気量

ここに規定する製品の品質は、総て荷卸し地点で次の条件を満足するものとする。

(1) 強度

レディミクストコンクリートの強度は、JIS A 5308 レディミクストコンクリートに規定する強度試験⁽¹⁾を行ったとき、次の条件を満足するものでなければならない。又は製品規格規定に示す検査を満足しなければならない。

a : 1 回の試験結果は、購入者から指定された呼び強度の強度値⁽²⁾の 85% 以上でなければならない。

b : 3 回の試験結果の平均値は、購入者が指定した呼び強度の強度値⁽²⁾以上でなければならない。

注⁽¹⁾ 強度試験に於ける供試体の材齢は、表 6-2.i) の指定がない場合はセメントの種類によって次の通りとする。

普通セメント・高炉 B 種セメントの場合は材齢 28 日・早強セメントの場合は 7 日指定がある場合は購入者の指定して管理日数とする。

注⁽²⁾ 呼び強度に少数点をつけて小数点以下 1 桁目を 0 とする N/mm² で表した値である。曲げ強度は 4.50N/mm² とする。

(2) スランプ

スランプは、購入者が指定した値に対して荷卸し地点に於いてそれぞれ表 8-3 の範囲となります。

表 8-3 スランプ 単位：cm

指定スランプ	スランプの許容差
2.5	±1.0
6.5	±1.5
8 以上 18 以下	±2.5
21	±1.5(注 1)

注 1
呼び強度 27 以上で高性能 AE 減水剤を使用する場合 ±2.0 とする。

(3) 空気量

空気量は、荷卸し地点に於いて表 8-4 の範囲内となります。

空気量の許容差は、購入者が指定した値に対しても表 8-4 の通りとします。

表 8-4 空気量 単位：%

コンクリートの種類	空気量	空気量の許容差
普通コンクリート 舗装コンクリート	4.5	± 1.5

(4) 塩化物含有量

コンクリートに含まれる塩化物含有量は、荷卸し地点で塩化物イオン(Cl⁻)量として 0.30 kg/m³ 以下となります。但し、購入者の承認を受けた場合には、0.60 kg/m³ 以下とすることができます。

尚、塩化物含有量の検査は、工場出荷時に行う事も出来ます。

(5) コンクリートの温度は 5℃～38℃の範囲内にあること。

但し、この範囲内を維持することができない場合は、購入者と協議のうえ決定する。

(6) 指定事項

購入者が指定した事項は、受渡し当事者間の協議によって検査し、指定事項を満足すること。

8-4 容積

製品の容積は、荷卸し地点で納入書に記載された容積を下回らないこと。

(容積の単位は立方メートル (m³) で表す。)

8-5 配合

- (1) 製品の配合は、購入者と協議により 8-1・表 8-2 に於いて指定した事項及び 8-3 項に規定する品質を満足するものとし、JIS A 5308 レディーミクストコンクリートに定める検査に合格するように当社の責任において当工場が定める。
- (2) 当工場は、レディーミクストコンクリート配合計画書及び骨材試験成績書・セメント試験成績書・混和材料試験成績書・その他必要書類を購入者に提出します。
提出は、製品の配達に先立って行う。又、当日の受注、配合変更等がある場合は、1 車目(1 台目) に持参させ、速やかに提出します。
- (3) 当工場は、購入者の要求があれば、配合設計、コンクリートに含まれる塩化物含有量の計算及びアルカリ骨材反応性抑制方法の基礎となる資料を提出する。

8-6 製造及び運搬

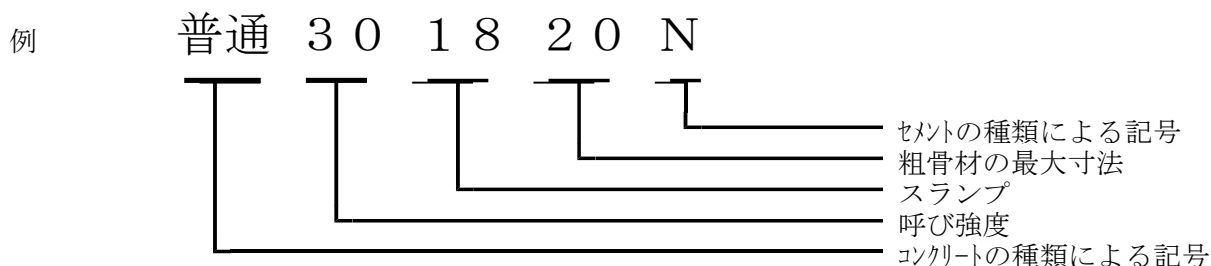
- (1) 製品の製造及び運搬は、JIS A 5308 レディーミクストコンクリート 8 項の規定に適合する製造設備及び運搬車を使用し、当社内規格に適合する製造設備及び運搬方法により行う。
- (2) 製品の運搬時間*は、生産者が練混ぜを開始してから運搬車が荷卸し地点に到着するまでの時間とし、その時間は 1.5 時間以内とする。但し、購入者と協議のうえ、運搬時間の限度の変更をすることができる。ただし、購入者と協議のうえ、運搬時間の限度を変更することができる。
※ 運搬時間は、レディーミクストコンクリート納入書に記載された納入の発着時刻の差によって確認することができる

8-7 試験方法

試験方法は、試験作業標準 (JIS 規格等) による。

8-8 製品の呼び方製品の呼び方

コンクリートの種類による記号、呼び強度、スランブ、粗骨材の最大寸法による記号及びセメントの種類による記号による。



(1) コンクリートの種類による記号

コンクリートの種類	粗骨材	細骨材	記号
普通コンクリート	砕石	砂	普通
舗装コンクリート	砕石	砂	舗装

(2) セメントの種類による記号

種類	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	高炉セメント B 種	中庸熱ポルトランドセメント
記号	N	H	B B	M

8-9 報告

- (1) 製品の納入書当工場は、運搬の都度、1 運搬車毎に製品の納入書を購入者宛に工場発時間及び現場着時間を記入し購入者に提出するものとする。
 - a) 購入者により下記の事項等について協議のうえ指定がある場合は、納入書の指定事項欄及び備考欄等に記入するものとする。
 - ① 単位セメント量の限度及び水セメント比の限度
 - ② 呼び強度を保証する材齢
 - ③ 官公庁と需要先が定めた表示記号
 - ④ 空気量及び単位水量の限度
 - ⑤ 指定された温度及び流動化後のスランブの増大値
 - ⑦ その他必要事項
 - b) JIS マークの表示方法

指定商品	レディーミクストコンクリート	日本産業規格の番号名称及び等級又は種類	JIS A 5308 普通コンクリート	
表示の内容				
商品の単位	表示場所	付け方	JIS マークの大きさ	製造会社名・製造工場
1 運搬車毎	納入書左上部	印刷	直径 11 mm 以上	宮松城南 株式会社 本社工場

※ 認証番号はプリンターにて印字

C) JIS マークの抹消方法

JIS 規格品として、JIS 表示の納入書を発行した場合、下記事項①・②に該当した時 JIS マークをプリン
ト及びボールペンで判るように消去するものとし、規格外品として取り扱うとともに購入者の了解が得
られた場合は（協議によって）荷卸しするが、購入者の了解の得られない場合は廃棄するものとする。

- ① 品質が製品規格を満足しない場合（規格外品等で工場によって抹消）
- ② 運搬中で事故等により、運搬時間が練り混ぜ開始から 1.5 時間を越えた場合

8-10 練り混ぜの管理：工程検査

A：工程検査(JIS A 5308)

スランプ・コンクリートの状態及び容積							目視検査	全バッチ			
ス ラ ンプ cm + ロス値							実測検査	2 回以上/日			
指定スランプ		12以下	15	18	21	適用期間					
練り 上 が り コ ン ク リ ー ト	目 標 ス ラ ン プ	N H B B M	A E 減 水 剤	標準期(60内)	4	3			2	2	3/ 4~6/15
				標準期(60超)	5	4			3	3	9/22~12/24
				夏 期(60内)	5	4			3	2	6/16~9/21
		夏 期(60超)	6	5	4	3					
		冬 期(60内)	4	3	2	2			12/25~3/3		
		冬 期(60超)	5	4	3	3					
	N H B B M	高 性 能 A E 減 水 剤	標準期(60内)	4	3	2			2	3/ 4~6/15	
			標準期(60超)	5	4	3			3	9/22~12/24	
			夏 期(60内)	5	4	3	2	6/16~9/21			
			夏 期(60超)	6	5	4	3				
冬 期(60内)			4	3	2	2	12/25~3/3				
冬 期(60超)			5	4	3	3					
・許容差 (cm) スランプ 2.5 ± 1.0 :スランプ 6.5 ± 1.5 スランプ 8 ~ 18 ± 2.5 :スランプ 21 ± 1.5 ・高性能 AE 減水剤で呼び強度 27 以上の場合 : スランプ 21 ± 2.0 ・適用期間標準配合 : 3/ 4 ~ 6/15・9/22~12/24 修正標準配合 (夏期) : 6/16 ~ 9/21 修正標準配合 (冬期) : 12/25 ~ 3/ 3 目標空気量 : 5.0 (%) 許容差 : ±1.5% 空気量ロスの値 : 0.5%											
圧縮強度試験 (呼び強度 27)								1 回以上/日			
コンクリートの塩化物含有量試験								1 回以上/月			

B：製品検査 (JIS A 5308)

荷 降 ろ し 検 査	スランプ cm		空気量%	塩化物含有量試験
	指定スランプ	2.5・6.5・8・10・12・15・18・21	規格値 4.5	0.30 kg/m ³ 以下 原則として 1 回以上/月 検査工場出荷時に行う
	・許容差cm スランプ 2.5±1.0 :スランプ 6.5±1.5 スランプ 8~18±2.5 :スランプ 21±1.5 ・高性能 AE 減水剤で呼び強度 27 以上の場合 スランプ 21 ±2.0	許容差% ±1.5		
圧縮強度試験 ・温度及びその他試験においてはスランプ試験等と一緒にを行う				

※ 検査頻度については下表に示す呼び強度別によって実施する。

種 類	セメント	呼び強度 (SL)	頻 度
普通コンクリート	N・H・M・BB	SL ≥18	150 m ³ に 1 回
舗装コンクリート	N・H・M・BB	曲げ 4.5	50 m ³ に 1 回

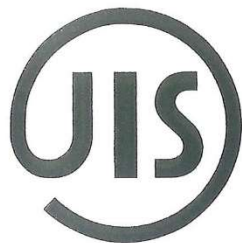
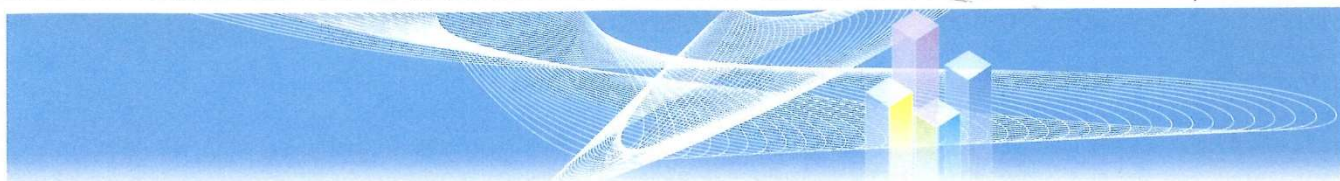
尚、供試体は作成後、脱型するまでの間、常温で保管する^①。

保管期間は、コンクリートを詰め終わってから 16 時間以上 48 時間以内とする。

供試体は、脱型後 20±2℃の水中養生とする。

注^①供試体は常温で作成するが、常温で作成が困難な場合は作成後、速やかに常温環境下に移す。

また、保管中はできるだけ水分の蒸発しないようにする。



発効日：2022年1月12日
Certification for Japanese Industrial Standards
日本産業規格適合性認証書

宮松城南株式会社 殿

産業標準化法第30条第1項に基づき、下記のとおり
当該日本産業規格への適合を認証いたします。

記

認 証 番 号：TC0306070

認証取得者の氏名及び名称：宮松城南株式会社
住 所：東京都大田区城南島1丁目1番3号

鋳工業品の名称：レディーミクストコンクリート

認証に係る JIS 番号：JIS A 5308

認 証 の 区 分：普通コンクリート・舗装コンクリート

工場及び事業所の名称：宮松城南株式会社 本社工場
所 在 地：東京都大田区城南島1丁目1番3号

「認証の範囲」、「認証マーク等の表示」、「付記事項の表示」及び「表示の方法」については
日本産業規格適合性認証書附属書による。

認 証 契 約 日：2007年1月12日

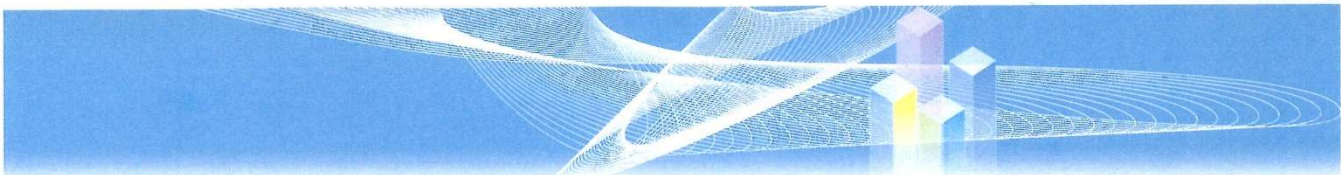
有 効 期 限：2025年1月11日



一般財団法人 **建材試験センター**
Japan Testing Center for Construction Materials
東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番15号

理事長 **渡辺 宏**





Annex to Certification for Japanese Industrial Standards

日本産業規格適合性認証書附属書

(認証番号:TC0306070)

認証の範囲(種類又は等級) :

コンクリートの種類	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブ cm	呼び強度										曲げ 4.5		
			18	21	24	27	30	33	36	40	42	45			
普通コンクリート	20	8,10,12, 15,18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		21	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
舗装コンクリート	20	2.5,6.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	

認証マーク等の表示 :

- 1) 認証マークは、単色とし直径 11mm 以上の大きさで表示する。
- 2) 認証マーク近傍に、一般財団法人 建材試験センターの略称及び認証番号として、「TC0306070」を表示する。

付記事項の表示 : 鉱工業品等には次の事項を表示する。

- 適合する JIS で定める表示事項
- ・認証取得者(製造業者)の名称
 - ・製造工場名

表示の方法 :

- 1) 認証マーク等は、1運搬車ごとにレディーミクストコンクリートの納入書に印刷する。
- 2) 容易に消えない方法による。

一般財団法人 建材試験センター
上級経営管理者

丸山 慶一郎



9. JIS A 5023 再生骨材コンクリートLの品質規格概要

9-1 種類

製品の種類は、粗骨材の最大寸法、スランプ及び呼び強度の組み合わせとする。表-1の○印で示す。

表-9-1 再生骨材コンクリートLの種類

種類	粗骨材の最大寸法 mm	スランプ cm	空気量 %	呼び強度		
				18	21	24
再生骨材コンクリートL	20	8. 10. 12. 15. 18	4.5 ^{a)}	○	○	○
注記 再生骨材コンクリートLは、裏込めコンクリート・間詰めコンクリート・なら(均)しコンクリート・捨てコンクリート等の、高い強度・高い耐久性が要求されない部材又は部位に使用する。又、通常高い凍結融解抵抗性を要求するのが難しい為、凍結融解作用を受けない部材又は部位に使用する。なお化学混和剤を用いて、単位水量が過大にならないようにするのがよい。						
注 ^{a)} 空気量は、4.5%±2.0%						

9-2 規格品

粗骨材の最大寸法、スランプ及び呼び強度を組み合わせた表-9-1に示す○印のものとする。

なお、a)及びb)は指定、c)～h)は必要に応じて協議の上、指定を受けるものとする。ただし、a)～h)までの事項は、この規格で規定している範囲で指定を受ける。

表-9-2 当工場対応可能範囲表

協議事項		当工場対応可能範囲	
a) セメントの種類		普通ポルトランドセメント・早強ポルトランドセメント 高炉セメントB種	
b) 再生粗骨材Lの最大寸法		20mm	
c) 混和材料の種類及び使用量	A E減水剤(標準形I種)	ヤマソー02NL・シーカメントJ	セメント量の1.0%～1.5%
	A E減水剤(遅延形I種)	ヤマソー02NLR・シーカメントJR	
d) JIS A 5023の5.4に定める塩化物含有量の上限値		塩化物イオン量(Cl-)として0.30kg/m ³ 以下 ただし、購入者の承認を受けた場合には0.60kg/m ³ 以下	
e) 呼び強度を保証する材齢	普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種		28日
	早強ポルトランドセメント		7日
f) 右記に定める空気量と異なる場合は、その値		購入者と協議の上定める。指定値は、5%以下とする	
g) JISA5308の附属書A(レディミッドコンクリート用骨材)に適合する骨材(注 ^{b)})と混合使用の場合は、再生細骨材L及び再生粗骨材Lの容積混合率			
h) その他必要事項			

注^{b)} JIS A 5308の附属書Aに適合する骨材のうち、人口軽量骨材を除く

9-3 規格外品

当工場の規格外品は、次の通りとする。

9-3-1 次の各項目に該当するもの

- (1) 工場渡しのもの
- (2) 設備管理規定に定めたプラント付属の計量装置以外のもので計量した混和材料を添加したもの
- (3) 配合設計基準に定められた配合設計方法と異なる方法で求めた配合のもの
- (4) 当社社内規格に定められた原材料、製造、運搬等を満足しないもの
- (5) 配合計画書を提出しないもの
- (6) 練り混ぜ開始から1.5時間をこえるもの
- (7) 練り混ぜ量が1バッチ1.0m³未満のもの
- (8) 水セメント比65%より大きいもの
- (9) 流動化コンクリート

9-4 品質

再生骨材コンクリートLは、荷卸し地点で、9-4.1～9-4-5に規定する条件を満足しなければならない。

9-4-1 圧縮強度

圧縮強度は、13.2に規定する試験を行ったとき、次の条件を満足するものでなければならない。強度試験における供試体の材齢は、表-C-2 e)の指定がない場合はセメントの種類によって次の通りとする。

普通セメント・中庸熱セメント・高炉B種セメントの場合は材齢28日・早強セメントの場合は7日、指定がある場合は購入者の指定して管理日数とする。

- 1) 1回の試験結果は、購入者が指定した呼び強度の強度値⁽¹⁾の85%以上でなければならない。
- 2) 3回の試験結果の平均値は、購入者が指定した呼び強度の強度値⁽¹⁾以上でなければならない。

$$X \geq 0.85SL \quad X \geq 0.85SL + 3\sigma \quad \text{--- 1)}$$

$$X \geq SL \quad X \geq SL + 3 \times (\sigma/\sqrt{3}) \quad \text{--- 2)}$$

注⁽¹⁾ 強度値とは、呼び強度の小数点付けて小数点以下1桁目を0とするN/mm²で表した値をいう。

9-4-2 スランプ

スランプは、13.3に規定するスランプ試験を行った時、表-C-1に示したスランプの値に対する許容差は±3cmとする。ただし、運搬中のスランプ低下量を適切に考慮している場合には、受渡当事者間の協議によって、スランプの値を工場出荷時において規定することができる。この場合も許容差は、±3cmとする。

9-4-3 空気量

3.1の協議事項で空気量の指定がある場合は、13.4に規定する試験を行い指定された空気量4.5±2.0%を満足しなければならない。但し、運搬中の空気量の低下を適切に考慮している場合には、受渡当事者間の協議によって、空気量の値を工場出荷時において規定することができる。この場合も許容差は、±2.0%とする。骨材修正係数は、0.5%とする。

9-4-4 塩化物含有量

3.1の協議事項で塩化物含有量の指定がある場合は、塩化物イオン(Cl⁻)量として0.30kg/m³以下とする。但し、購入者の承認を受けた場合には、0.60kg/m³以下とする。

9-4-5 コンクリート温度

荷卸し地点で、原則として5℃～38℃以下とする。

9-5 容 積

再生骨材コンクリートLの容積は、荷卸し地点で、納入書に記載した容積を下回らないこととする。

9-6 配 合

再生骨材コンクリートLの配合は、次による。

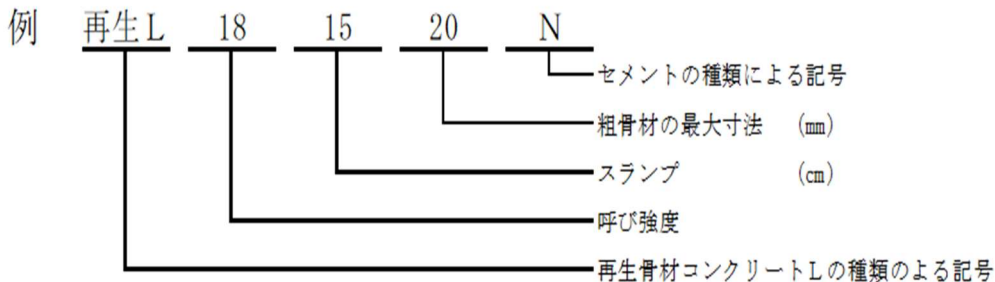
- a) 配合は、4.品質に規定する品質を満足し、かつ、箇条14.に規定する検査に合格するように、試験練りなどによって、当工場が決める。ただし、水セメント比の最大値は、65%とする。
- b) 購入者の要求があれば、再生骨材コンクリートL配合計画書を提出しなければならない。なお、配合計画書の提出は、再生骨材コンクリートLの配達に先立って行う。

9-7 製品の呼び方製品の呼び方

コンクリートの種類による記号、呼び強度、スランプ、粗骨材の最大寸法による記号及びセメントの種類による記号による。

(1) セメントの種類による記号

種 類	記 号
普通ポルトランドセメント	N
早強ポルトランドセメント	H
高炉セメントB種	B B



9-8 報 告

(1) 製品の納入書当工場は、運搬の都度、1運搬車毎に製品の納入書を購入者宛に工場発時間及び現場着時間を記入し購入者に提出するものとする。

a) 購入者により下記の事項等について協議のうえ指定がある場合は、納入書の指定事項欄及び備考欄等に記入するものとする。

- ① 単位セメント量の限度及び水セメント比の限度
- ② 呼び強度を保証する材齢
- ③ 官公庁と需要先が定めた表示記号
- ④ 空気量及び単位水量の限度
- ⑤ 指定された温度及び流動化後のスランプの増大値
- ⑦ その他必要事項

b) JIS マークの表示方法

指定商品	再生骨材コンクリートL	日本産業規格の番号名称及び等級又は種類	JIS A 5023 再生骨材コンクリートL	
表示の内容				
商品の単位	表示場所	付け方	JISマークの大きさ	製造会社名・製造工場
1運搬車毎	納入書左上部	印刷	直径11mm以上	宮松城南 株式会社 本社工場

※ 認証番号はプリンターにて印字

C) JIS マークの抹消方法

JIS 規格品として、JIS 表示の納入書を発行した場合、下記事項①・②に該当した時 JIS マークをプリント及びボールペンで判るように消去するものとし、規格外品として取り扱うとともに購入者の了解が得られた場合は（協議によって）荷卸しするが、購入者の了解の得られない場合は廃棄するものとする。

- ① 品質が製品規格を満足しない場合（規格外品等で工場によって抹消）
- ② 運搬中で事故等により、運搬時間が練り混ぜ開始から 1.5 時間を越えた場合

9-9 練り混ぜの管理

a: 工程検査(JIS A 5023)

練り上がりコンクリート	スランブ・コンクリートの状態及び容積							目視検査	全バッチ			
	スランブ cm + ロス値							実測検査	1 回以上/日 (出荷の都度)			
	指定スランブ			8	10	12	15			18	適用期間	
	目標スランブ	N H BB	A E 減 水 剤	標準期(60内)	4	4	4			3	2	3/ 4~6/15
				標準期(60超)	5	5	5			4	3	9/22~12/24
				夏期(60内)	5	5	5			4	3	6/16~9/21
				夏期(60超)	6	6	6			5	4	
				冬期(60内)	4	4	4			3	2	12/25~3/3
				冬期(60超)	5	5	5			4	3	
	・許容差 (cm) スランブ 8 ~ 18 ± 3.0 ・適用期間標準配合 : 3/ 4 ~ 6/15・9/22~12/24 修正標準配合 (夏期) : 6/16 ~ 9/21 修正標準配合 (冬期) : 12/25 ~ 3/ 3											
目標空気量 : 5.0 (%) 許容差 : ±2.0% 空気量ロスの値 : 0.5% 骨材修正係数 0.5%												
圧縮強度試験 (呼び強度 18) (出荷の都度)								1 回以上/日				
コンクリートの塩化物含有量試験 (出荷の都度)								1 回以上/日				

b: 製品検査(JIS A 5023)

荷降ろし検査	スランブ cm		空気量%	塩化物含有量試験
	指定スランブ	8・10・12・15・18	規格値 4.5	0.30 kg/m ³ 以下
	・許容差 cm スランブ 8~18±3.0		許容差% ±2.0	1 回以上/日 出荷時に行う
	圧縮強度試験 ・温度及びその他試験においてはスランブ試験等と一緒にを行う			

※ 検査頻度については下表に示す呼び強度別によって実施する。

種類	セメント	呼び強度 (SL)	頻度
再生骨材コンクリート L	N・H・BB	18・21・24	100 m ³ に 1 回



発効日：2021年2月8日



Certification for Japanese Industrial Standards

日本産業規格適合性認証書

宮松城南株式会社 殿

産業標準化法第30条第1項に基づき、下記のとおり
当該日本産業規格への適合を認証いたします。

記

認 証 番 号：TC0320008

認証取得者の氏名及び名称：宮松城南株式会社
住 所：東京都大田区城南島1丁目1番3号

鋳工業品の名称：再生骨材コンクリートL

認証に係るJIS番号：JIS A 5023

認 証 の 区 分：再生骨材コンクリートL

工場及び事業所の名称：宮松城南株式会社 本社工場
所 在 地：東京都大田区城南島1丁目1番3号

「認証の範囲」、「認証マーク等の表示」、「付記事項の表示」及び「表示の方法」については
日本産業規格適合性認証書附属書による。

認 証 契 約 日：2021年2月8日
有 効 期 限：2024年2月7日



一般財団法人 **建材試験センター**
Japan Testing Center for Construction Materials
東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番15号

理事長 **福水健文**





Annex to Certification for Japanese Industrial Standards

日本産業規格適合性認証書附属書

(認証番号:TC0320008)

認証の範囲(種類又は等級) :

種類	粗骨材の 最大寸法 (mm)	スランプ cm	呼び強度		
			18	21	24
再生骨材コンクリートL	20	8,10,12, 15,18	○	○	○

認証マーク等の表示 :

- 1) 認証マークは、単色とし直径 11mm 以上の大きさで表示する。
- 2) 認証マーク近傍に、一般財団法人 建材試験センターの略称及び認証番号として、「TC0320008」を表示する。

付記事項の表示 : 鉱工業品等には次の事項を表示する。

- 適合する JIS で定める表示事項
- 認証取得者(製造業者)の名称
 - 製造工場名

表示の方法 :

- 1) 認証マーク等は、1運搬車ごとに、納入書に印刷する。
- 2) 容易に消えない方法による。

一般財団法人 建材試験センター
上級経営管理者

丸山 慶一郎



10. 配合設計の概要

10-1 原材料基準値及び原材料による配合変更基準

配合設計に用いる原材料の基準値は表 10-1 及び原材料による配合変更基準値は表 10-2 に示す通りとする。

表 10-1 原材料基準値

原材料の種類	密度	実積率(%)	アルカリ量(%)	塩化物イオン(%)
普通ポルトランドセメント	3.15	—	0.75 以下	0.02 以下
早強ポルトランドセメント	3.13	—	0.75 以下	0.02 以下
高炉セメント B 種	3.04	—	—	—
中庸熟ポルトランドセメント	3.21	—	0.75 以下	0.02 以下
細骨材 (混合砂)	2.60	—	—	0.04 以下
粗骨材 (碎石 2005)	2.69	62.0	—	—
再生粗骨材 RLG2005 (株)豊田商店製	2.50	60.0	—	—
ヤマソー02NL シリーズ	1.04	—	0.75 以下	0.02 以下
シーカメント J シリーズ	1.05	—	0.75 以下	0.02 以下
シーカメント 1100NT シリーズ	1.08	—	0.75 以下	0.02 以下
チューポール HP-11 シリーズ	1.08	—	0.75 以下	0.02 以下
空気量調整剤	1.00	—	0.75 以下	0.02 以下

表 10-2 原材料による配合変更基準値

原材料の種類	密度	変更基準	粗粒率	変更基準	実積率	変更基準
普通ポルトランドセメント	3.15	±0.02	—	—	—	—
早強ポルトランドセメント	3.13	±0.02	—	—	—	—
高炉セメント B 種	3.04	±0.02	—	—	—	—
中庸熟ポルトランドセメント	3.21	±0.02	—	—	—	—
細骨材 (混合砂)	2.60	±0.02	2.75	±0.20	—	—
粗骨材 (碎石 2005)	2.69	±0.02	6.65	—	62.0	±2.0
再生粗骨材 RLG2005 (株)豊田商店製	2.50	±0.03	6.60	—	60.0	±2.0

10-2 配合強度の求め方

配合強度は次の式で求める。

$$m = SL + T \cdot \sigma$$

ここで: m : 配合強度 (N/mm²)
 SL : 呼び強度
 T : 正規偏差
 σ : 標準偏差 (N/mm²)

正規偏差(T)及び標準偏差(σ)の値は表 10-3・表 10-4 に示す通りとする。

表 10-3 強度の割増値 (JIS A 5308)

呼び強度の範囲	正規偏差 (T)	標準偏差 (σ)	強度の割増値 N/mm ²	配合強度 (N/mm ²)
18・21	2.0	2.0	4.0	22.0・25.0
24・27		2.5	5.0	29.0・32.0
30		3.0	6.0	36.0
33		3.3	6.6	39.6
36		3.6	7.2	43.2
40		3.9	7.8	47.8
42・45		4.0	8.0	50.0・53.0
曲げ 4.5		0.45	0.9	5.4

表 10-4 強度の割増値 (JIS A 5023)

呼び強度の範囲	正規偏差 (T)	標準偏差 (σ)	強度の割増値 (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)
18・21・24	2.0	2.5	5.0	23.0・26.0・29.0

10-3 試験練り

- ① 原則として JIS 規格品については試験練りを行わないが、その他購入者から要請があった場合及び原材料等の変更により配合の見直し、品質の確認をする必要性があれば試験練りを行うものとする。
- ② 使用実績のない原材料を使用する場合は、製造業者から資料を取り寄せその性能及び品質を確認した上で試験練りを行い配合を定める。
- ③ 試験練りのスランプ及び空気量の目標値は、それぞれの指定された値にロス値を見する。

10-4 水セメント比の算定方法

当工場の水セメント比と強度の関係式に配合強度の値を代入して求める。

水セメント比と強度の関係式は試験練りによって求めた式から表 10-4・表 10-5 及び表 10-6 に示す通りとする。この条件に当てはまらない場合は試験練りにより所要の水セメント比を定める。

10-5 購入者から水セメント比を指定された場合

指定された水セメント比と呼び強度から求める水セメント比とを比較してどちらか満足する小さい方を採用する。※前記の結果、指定された水セメント比を採用する時は、これと呼び強度に換算し製品規格表の呼び強度とスランプの組み合わせの中から安全側にある呼び強度を選び、その指定を受ける様に購入者と協議する。

10-6 単位セメント量の指定された場合

指定された単位セメント量と単位水量(当工場の実績より)とから水セメント比と呼び強度に換算し製品規格表の呼び強度とスランプの組み合わせの中から安全側にある呼び強度を選びその指定を受ける様に購入者と協議する。

表 10-4 水セメント比と強度の関係式(一次回帰直線式:JIS A 5308)
(標準配合・冬期配合の適用期間は原則として 9/22~6/15)

骨材の種類	セメントの種類	材齢(日)	混和剤の種類(銘柄)	呼び強度の範囲	一次回帰直線式(強度関係式)		
碎石 20-05	普通ポルトランドセメント	28	A E 減水剤 (標準形) ヤマソー02NL シーカメント J	S L ≤ 45	$m_{28} = -13.1 + 24.7 C/W$		
	高炉セメント B 種				$m_{28} = -16.2 + 26.5 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{28} = -13.5 + 24.4 C/W$		
	早強ポルトランドセメント	$m_7 = -18.9 + 26.5 C/W$					
	高炉セメント B 種	56			$m_{56} = -24.4 + 33.7 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{56} = -22.1 + 31.7 C/W$		
	普通ポルトランドセメント	28		曲げ 4.5	$m_{28} = -2.33 + 3.25 C/W$		
	高炉セメント B 種				$m_{28} = -2.39 + 3.21 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{28} = -2.18 + 3.07 C/W$		
	早強ポルトランドセメント	7			$m_7 = -2.30 + 3.11 C/W$		
	普通ポルトランドセメント	28			高性能 A E 減水剤 (標準形) チュール HP-11 シーカメント 1100NT	S L ≤ 45	$m_{28} = -25.6 + 31.8 C/W$
	高炉セメント B 種						$m_{28} = -16.8 + 27.0 C/W$
	中庸熟ポルトランドセメント		$m_{28} = -21.6 + 29.0 C/W$				
	早強ポルトランドセメント		7	$m_7 = -25.9 + 31.7 C/W$			
	高炉セメント B 種		56	$m_{56} = -16.0 + 28.9 C/W$			
	中庸熟ポルトランドセメント	$m_{56} = -14.2 + 28.8 C/W$					

表 10-5 水セメント比と強度の関係式(一次回帰直線式):(修正標準配合:夏期 6/16~9/21)

骨材の種類	セメントの種類	材齢(日)	混和剤の種類(銘柄)	呼び強度の範囲	一次回帰直線式(強度関係式)		
碎石 20-05	普通ポルトランドセメント	28	A E 減水剤 (遅延形) ヤマソー02NLR シーカメント JR	S L ≤ 45	$m_{28} = -15.1 + 24.7 C/W$		
	高炉セメント B 種				$m_{28} = -18.2 + 26.5 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{28} = -15.5 + 24.4 C/W$		
	早強ポルトランドセメント	7			$m_7 = -20.9 + 26.5 C/W$		
	高炉セメント B 種	56			$m_{56} = -26.4 + 33.7 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{56} = -24.1 + 31.7 C/W$		
	普通ポルトランドセメント	28		曲げ 4.5	$m_{28} = -2.53 + 3.25 C/W$		
	高炉セメント B 種				$m_{28} = -2.59 + 3.21 C/W$		
	中庸熟ポルトランドセメント				$m_{28} = -2.38 + 3.07 C/W$		
	早強ポルトランドセメント	7			$m_7 = -2.50 + 3.11 C/W$		
	普通ポルトランドセメント	28			高性能 A E 減水剤 (遅延形) チュール HP-11R シーカメント 1100NTR	S L ≤ 45	$m_{28} = -27.6 + 31.8 C/W$
	高炉セメント B 種						$m_{28} = -18.3 + 27.0 C/W$
	中庸熟ポルトランドセメント		$m_{28} = -23.6 + 29.0 C/W$				
	早強ポルトランドセメント		7	$m_7 = -27.9 + 31.7 C/W$			
	高炉セメント B 種		56	$m_{56} = -18.0 + 28.9 C/W$			
	中庸熟ポルトランドセメント	$m_{56} = -16.2 + 28.8 C/W$					

表 10-6 水セメント比と強度の関係式(一次回帰直線式:JIS A 5023)

骨材の種類	セメントの種類	材齢(日)	混和剤の種類(銘柄)	呼び強度の範囲	一次回帰直線式(強度関係式)
RLG 2005	普通ポルトランドセメント	28	A E 減水剤 ヤマソー02NL・R シーカメント J・R	18・21・24	$m_{28} = -9.3 + 20.3 C/W$
	高炉セメント B 種				$m_{28} = -4.2 + 17.8 C/W$
	早強ポルトランドセメント	7			$m_7 = -10.8 + 31.7 C/W$

10-7 単位水量の求め方

- ① 単位水量はスランプ・コンシステンシー及びワーカビリティが得られる範囲で最小になるよう試験練りにより決定する。
- ② 単位水量とスランプの関係は試験練り及びスランプロスの実績等により定めたものである。
期間及び季節間(練り上がりコンクリート温度)と単位水量の関係

運搬時間 60 分以内の場合

	期 間 (※)	練り上がり温度(℃)	補正法
標準配合	3/4 ~ 6/15 ・ 9/22 ~ 12/24	13℃以上 28℃未満	なし
夏期配合	6/16 ~ 9/21	28℃以上	+ 4
冬期配合	12/25 ~ 3/ 3	12℃以下	なし

※ 原則として上記の期間とする。

※※ 高性能 AE 減水剤の場合は単位水量の補正はなく、混和剤料の使用量を+0.10%増

運搬時間 60 分超の場合

	期 間 (※)	練り上がり温度(℃)	補正法
標準配合	3/4 ~ 6/15 ・ 9/22 ~ 12/24	13℃以上 28℃未満	なし
夏期配合	6/16 ~ 9/21	28℃以上	なし
冬期配合	12/25 ~ 3/ 3	12℃以下	なし

※ 原則として上記の期間とする。

※※ 単位水量の補正はなく、混和剤料の使用量をそれぞれ

- ・ A E 減水剤の場合 +0.20%増
- ・ 高性能 A E 減水剤の場合 +0.10%増

10-8 「気温による補正值 T」及び「構造体強度補正值 $_{28}S_{91}$ 」の求め方

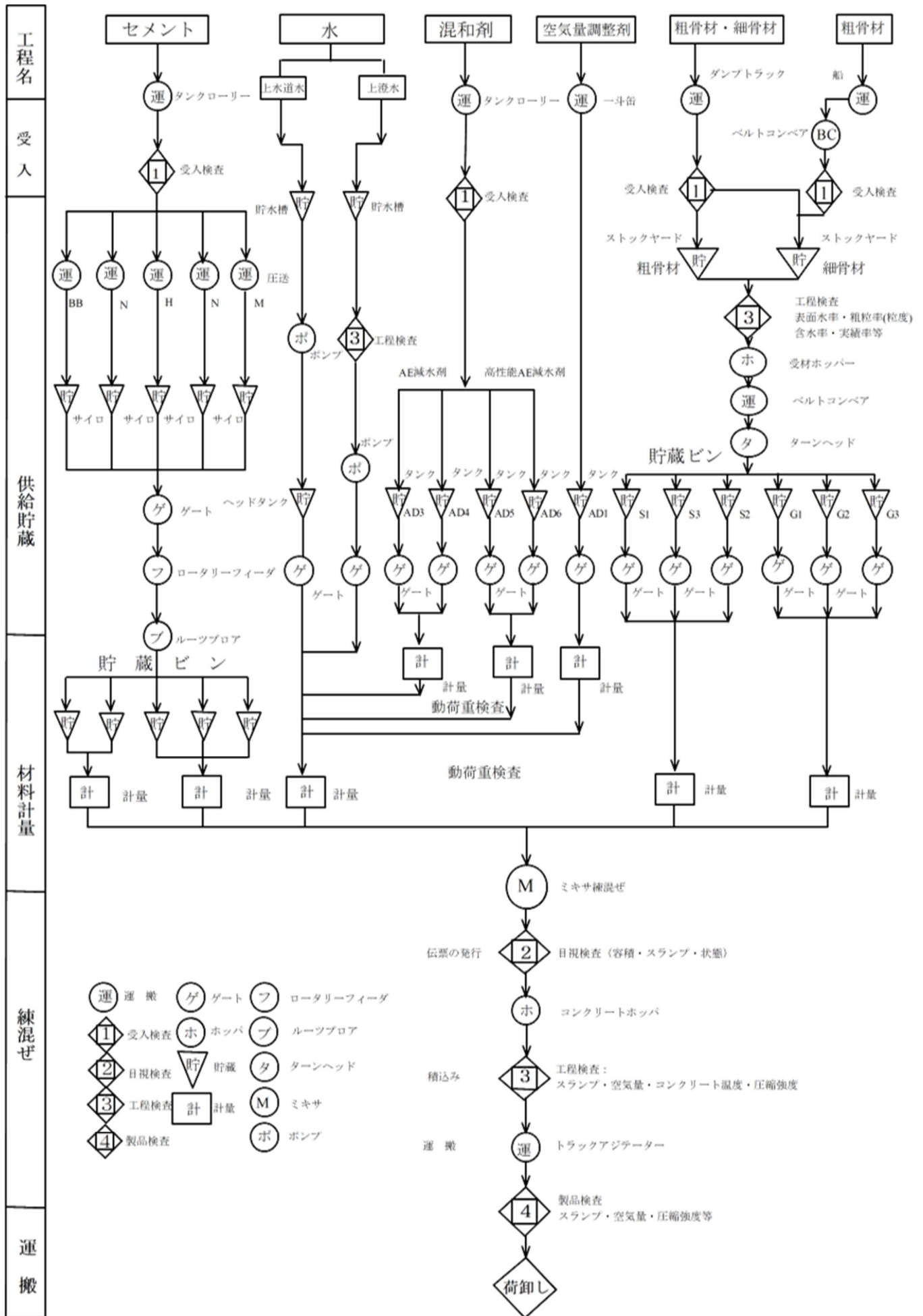
旧 JASS5 の「気温による補正值 T」の適用期間や新 JASS5 の「構造体強度補正值 $_{28}S_{91}$ 」の適用期間は構造 体強度を担保するために定められた期間で、打込みから材齢 28 日までの予想平均気温や打込み時の外気温により定めるものです。

JASS 5 2003年版	コンクリート 温度 による 時期	3/4	4/9	4/10	6/15	6/16	7/8	7/9	9/11	9/12	9/21	9/22	10/16	10/17	12/7	12/8	12/24	12/25	2/19	2/20	3/3
		20±7℃						28℃以上				20℃±7℃				12℃以下					
		標準期						夏 期				標準期				冬 期					
		標準配合 (3/4~6/15)				夏期配合 (6/16~9/21)				標準配合 (9/22~12/24)				冬期配合 (12/25~3/3)							
	気温による補 正值 (Nセ メント28日)	2/20~4/9		4/10~7/8			7/9~9/11		9/12~10/16			10/17~12/7		12/8~2/19			2/20~3/3				
		T=3		T=0			暑中期間 T=0		T=0			T=3		T=6			T=3				
		Fc (Fd)+Δ+3		Fc (Fd)+Δ+0			Fc (Fd)+Δ+0			Fc (Fd)+Δ+0		Fc (Fd)+Δ+3		Fc (Fd)+Δ+6			Fc (Fd)+Δ+3				
		3		0			0			0		3		6			6		3		

JASS 5 2009年版	コンクリート 温度 による 時期	3/4	6/15			6/16	7/4	7/5	9/11	9/12	9/21	9/22	12/9			12/10	12/24	12/25	2/15	2/16	3/3
		20±7℃						28℃以上				20℃±7℃				12℃以下					
		標準期						夏 期				標準期				冬 期					
		標準配合 (3/4~6/15)				夏期配合 (6/16~9/21)				標準配合 (9/22~12/24)				冬期配合 (12/25~3/3)							
	気温による補 正值 (Nセ メント28日)	2/16~7/4			7/5~9/11		9/12~12/9			12/10~2/15			2/16~3/3								
		S=3			暑中期間 S=6		S=3			S=6			S=3								
		Fc (Fd)+3			Fc (Fd)+3		Fc (Fd)+6		Fc (Fd)+3			Fc (Fd)+6			Fc (Fd)+3						

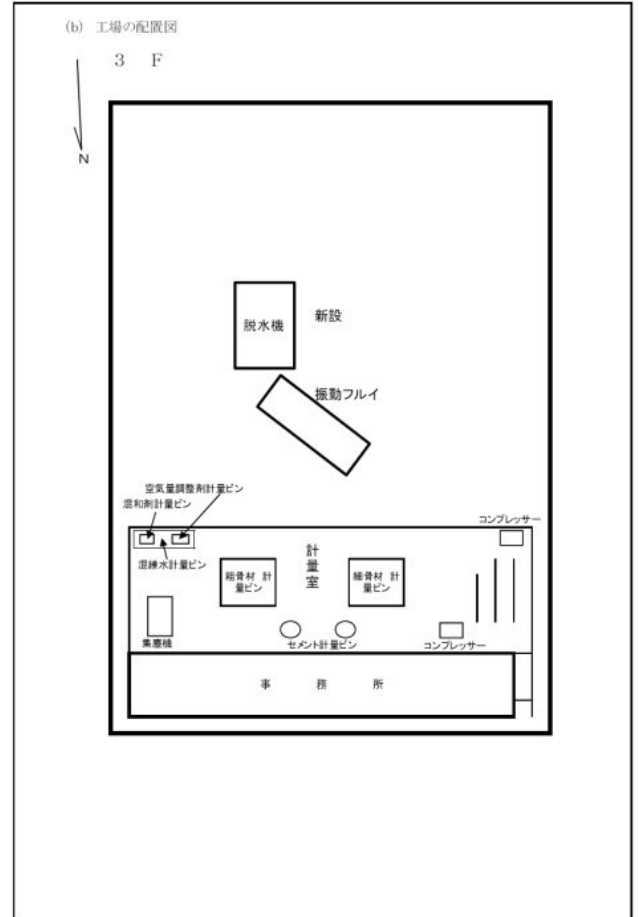
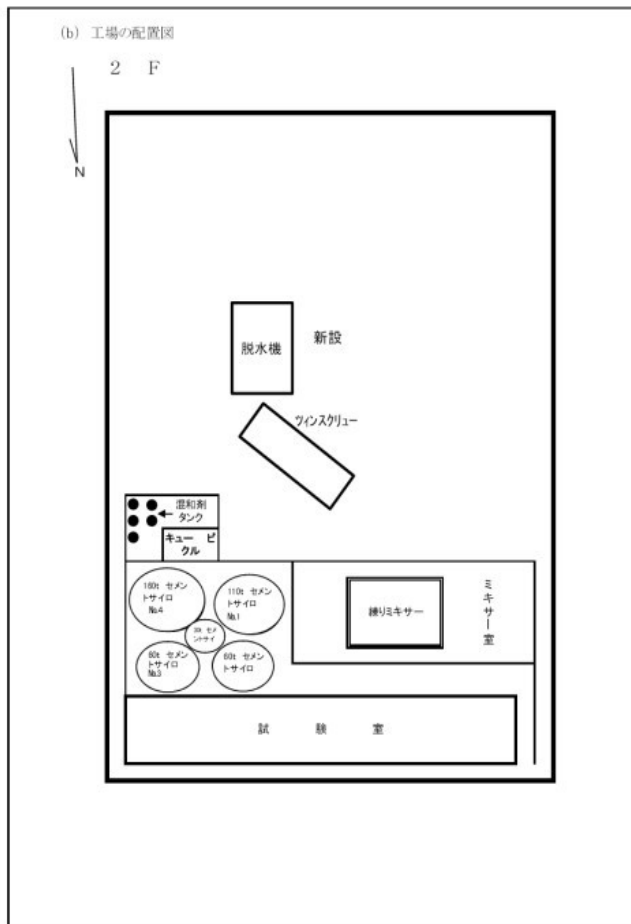
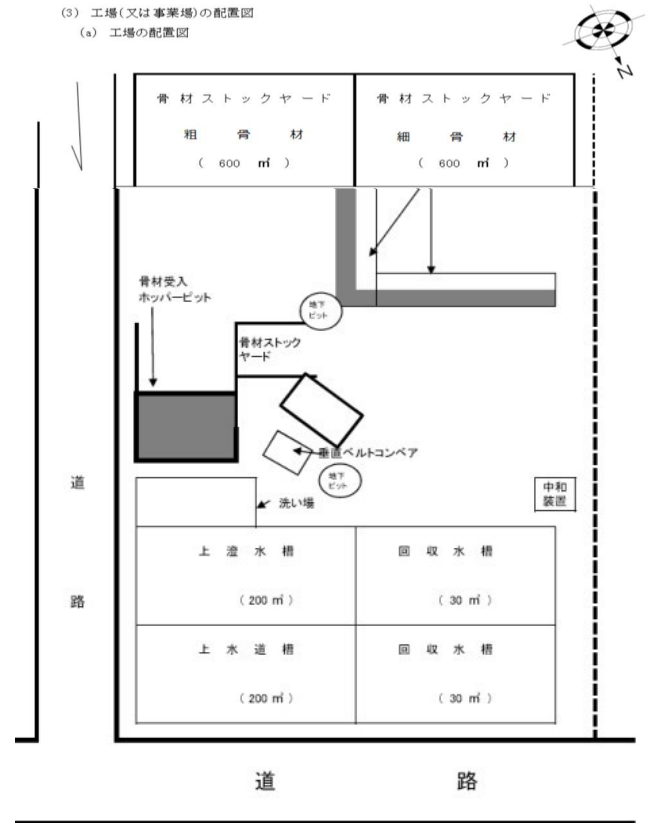
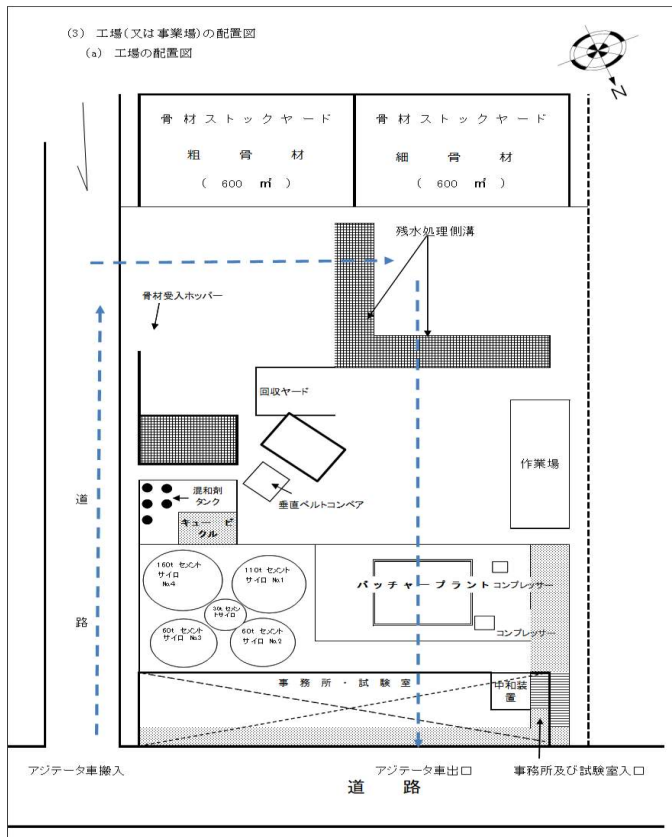
JASS 5 2015年版	コンクリート 温度 による 時期	3/4	6/15			6/16	7/3	7/4	9/14	9/15	9/21	9/22	12/5			12/6	12/24	12/25	2/17	2/18	3/3
		20±7℃						28℃以上				20℃±7℃				12℃以下					
		標準期						夏 期				標準期				冬 期					
		標準配合 (3/4~6/15)				夏期配合 (6/16~9/21)				標準配合 (9/22~12/24)				冬期配合 (12/25~3/3)							
	気温による補 正值 (Nセ メント28日)	2/18~7/3			7/4~9/14		9/15~12/5			12/6~2/17			2/18~3/3								
		S=3			暑中期間 S=6		S=3			S=6			S=3								
		Fc (Fd)+3			Fc (Fd)+3		Fc (Fd)+6		Fc (Fd)+3			Fc (Fd)+6			Fc (Fd)+3						

11. 製造工程図 (フロー図)



12. 工場配置図

(平面図)



認 定 書

国住指第 1023 号
平成 29 年 7 月 11 日

宮松城南株式会社 本社工場
代表取締役 村松 直人 様

国土交通大臣 石井 啓一



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 37 条第二号の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
MCON-3790
2. 認定をした構造方法等の名称
高強度コンクリート
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

宮松城南 本社工場 高強度星取表 (MCON-3790)

最新版

セメント種類	設計基準強度 Fc(N/mm ²)	標準期				夏 期				冬 期			
		3/4~6/15・9/22~12/24				6/16~9/21				12/25~3/3			
		指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)	指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)	指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)
普通 28 _{S91}	39	46	7	4.6	55.2	46	7	4.6	55.2	46	7	4.6	55.2
	40	46	6	4.6	55.2	47	7	4.7	56.4	46	6	4.6	55.2
	42	48	6	4.8	57.6	50	8	5.0	60.0	46	4	4.6	55.2
	45	52	7	5.2	62.4	54	9	5.4	64.8	49	4	4.9	58.8
	48	56	8	5.6	67.2	58	10	5.8	69.6	52	4	5.2	62.4
	50	58	8	5.8	69.6	60	10	6.0	72.0	54	4	5.4	64.8
	51	59	8	5.9	70.8	61	10	6.1	73.2	55	4	5.5	66.0
	54	63	9	6.3	75.6	65	11	6.5	78.0	59	5	5.9	70.8
	55	64	9	6.4	76.8	66	11	6.6	79.2	60	5	6.0	72.0
	57	67	10	6.7	80.4	69	12	6.9	82.8	62	5	6.2	74.4
60	71	11	7.1	85.2	72	12	7.2	86.4	66	6	6.6	79.2	

セメント種類	設計基準強度 Fc(N/mm ²)	標準期				夏 期				冬 期			
		3/4~6/15・9/22~12/24				6/16~9/21				12/25~3/3			
		指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)	指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)	指定強度 (Fr) (N/mm ²)	S値 (N/mm ²)	標準偏差 (σ) (N/mm ²)	配合強度 (N/mm ²)
中庸 28 _{S91}	39	46	7	4.6	55.2	46	7	4.6	55.2	46	7	4.6	55.2
	40	46	6	4.6	55.2	46	6	4.6	55.2	46	6	4.6	55.2
	42	46	4	4.6	55.2	46	4	4.6	55.2	46	4	4.6	55.2
	45	46	1	4.6	55.2	46	1	4.6	55.2	46	1	4.6	55.2
	48	48	0	4.8	57.6	48	0	4.8	57.6	48	0	4.8	57.6
	50	50	0	5.0	60	50	0	5.0	60.0	50	0	5.0	60.0
	51	51	0	5.1	61.2	51	0	5.1	61.2	51	0	5.1	61.2
	54	54	0	5.4	64.8	54	0	5.4	64.8	54	0	5.4	64.8
	55	55	0	5.5	66	55	0	5.5	66.0	55	0	5.5	66.0
	57	57	0	5.7	68.4	57	0	5.7	68.4	57	0	5.7	68.4
60	60	0	6.0	72	60	0	6.0	72.0	60	0	6.0	72.0	

付表-8 高強度コンクリートの品質

1) 高強度コンクリートの品質																			
セメントの種類	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブ (cm) *1	スランブフロー (cm) *1	圧縮強度の基準値 (設計基準強度) (N/mm ²)										空気量 (%)	塩化物含有量 (kg/m ³)				
				39	40	42	45	48	50	51	54	55	57 (注1)			60 (注1)			
普通ポルトランドセメント	20	21	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	2.0 3.0 4.0 4.5	0.30以下	
		23	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
		—	50	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
		—	55	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
		—	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
		—	65	○*4	○*4	○*4	○*4	○*4	○	○	○	○	○	○	○	○			○
中沸熱ポルトランドセメント	20	21	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	2.0 3.0 4.0 4.5	0.30以下	
		23	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		—	50	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		—	55	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		—	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		—	65	○*4	○*4	○*4	○*4	○*4	○	○	○	○	○	○	○	○			

2) 構造体強度補正值																
セメントの種類	mSn	コンクリートの打込み時期	圧縮強度の基準値 (設計基準強度) (N/mm ²)										備考			
			39	40	42	45	48	50	51	54	55	57		60		
普通ポルトランドセメント	28S ₉₁	夏期	7	7	8	9	10	10	10	10	11	11	11	12	12	—
		標準期	7	6	6	7	8	8	8	9	9	10	10	11	11	
		冬期	7	6	4	4	4	4	4	5	5	5	5	6	6	
中沸熱ポルトランドセメント	28S ₉₁	通期	7	6	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—

注1) 備考 *1: スランブ又はスランブフローのいずれか一方で管理する。
 *2: 圧縮強度の基準値が 57 N/mm²の場合、夏期の空気量 4.0%及び 4.5%には適用しない。
 *3: 圧縮強度の基準値が 60 N/mm²の場合、標準期及び夏期の空気量 4.0%及び 4.5%には適用しない。
 *4: 単位セメント量 460 kg/m³以上とする。

14. ○適マーク取得に関する件

レディーミクストコンクリート全国統一品質監理に基づいて監査を受け合格した工場に与えられる制度です。
毎年3回監査が行われ、下記の内容です。

本審査：書類審査 1回/年

圧縮強度・スランプ・空気量・単位容積・塩化物含有量動加重検査

抜き取り審査：圧縮強度・スランプ・空気量・単位容積・塩化物含有量動加重検査 2回/年

15. 有資格者証明書

品質管理監査合格証

宮松城南株式会社 殿

貴工場は東京都生コンクリート品質管理監査
会議が令和4年度に実施した立入監査の結果
全国統一品質管理監査基準に適合しているもの
と判定しここに合格証を交付する

記

有効期間 自 令和5年 4月 1日

至 令和6年 3月31日

令和4年12月 7日

東京都生コンクリート品質管理監査会議

議長 早川光 敬





登録証

コンクリート技士

合格番号 04130941 登録番号 12303288
氏名 太田 正之 登録日 2023年4月1日
生年月日 1978年9月9日 有効期限 2027年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 西山 峰広



登録証

コンクリート技士

合格番号 95131246 登録番号 12001304
氏名 池田 寛 登録日 2020年4月1日
生年月日 1964年3月23日 有効期限 2024年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 芳村 学



登録証

コンクリート主任技士

合格番号 13235969 登録番号 22201820
氏名 村松 恵二 登録日 2022年4月1日
生年月日 1983年6月1日 有効期限 2026年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート主任技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 二羽 淳一郎



登録証

コンクリート技士

合格番号 17131473 登録番号 12208229
氏名 小林 英克 登録日 2022年4月1日
生年月日 1981年12月12日 有効期限 2026年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 二羽 淳一郎



登録証

コンクリート技士

合格番号 18133027 登録番号 12308718
氏名 村松 恵人 登録日 2023年4月1日
生年月日 1995年4月15日 有効期限 2027年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 西山 峰広



登録証

コンクリート技士

合格番号 21131135 登録番号 12210298
氏名 篠崎 聡美 登録日 2022年4月1日
生年月日 1976年12月30日 有効期限 2026年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 二羽 淳一郎





登録証

コンクリート技士

合格番号 21133451

登録番号 12210926

氏名 根津 悠華

登録日 2022年4月1日

生年月日 1994年4月11日

有効期限 2026年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 二羽 淳一郎



登録証

コンクリート主任技士

合格番号 10235631

登録番号 22301346

氏名 佐藤 宏行

登録日 2023年4月1日

生年月日 1958年5月15日

有効期限 2027年3月31日

本学会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり
コンクリート主任技士として登録したことを証します。

公益社団法人 日本コンクリート工学会

会長 西山 峰広



16. 工場案内図

- 1 最寄り駅 : 東海道本線 大森駅
 距離 : 東海道本線 大森駅より約
 所要時間 : 東海道本線 大森駅より車で約20分 又は京浜急行バス(城南島循環行き、
 建材ふ頭下車)で約20分
- 2 最寄り駅 : 京浜急行平和島駅
 距離 : 京浜急行平和島駅より約3.5km
 所要時間 : 京浜急行平和島駅より車で約10分 又は京浜急行バス(城南島循環行き、
 建材ふ頭下車)で約15分
- 3 最寄り駅 : 東京モノレール 流通センター駅
 距離 : 東京モノレール 流通センター駅より約2km
 所要時間 : 東京モノレール 流通センター駅より車で約5分又は京浜急行バス(城南島循環行
 き、建材ふ頭下車)で約8分

